

## 第一回六甲部 E M C 事業委員会議事録

日時：2013年7月23日(火) 19時～20時30分

会場：神戸 Y M C A 4階第二会議室

出席者：鵜丹谷剛(神戸)、長井慎吾(西宮)、廣瀬献児(神戸ポート・代)、多胡葉子(宝塚)、松本文男(さんだ・代)、阪本伸彦(神戸学園都市)、福原吉孝(芦屋・代)、山田滋己六甲部部長、小野勅紘六甲部 E M C 事業主査 (敬称略)

### 議事

1. 六甲部長挨拶(山田六甲部部長)  
E M C 事業主査挨拶(小野)
2. 为国西日本区 E M C 事業主任より送付の「E M C 関係提出資料(フォーム)」ならびに「E M C 事業主査の手引き」を配布。(小野)
3. 2013 - 14年度六甲部 E M C 事業の活動方針(別添資料)と活動目標値の説明  
目標値の設定根拠と「六甲部200」キャンペーンに対する新5か年計画策定のお願い(小野)
4. 配布資料に基づき提出資料の説明とお願い  
特に E M C 集計表については西日本区に報告は3か月毎になっているが、六甲部については、毎月提出することをお願いした。(報告事項に大きな変化があった場合、緊急に対応や対策が打てないで、手遅れになることを危惧しての対応。西日本区への報告は指定通り3か月毎行う。)(小野)
5. 今後の予定  
E M C 事業委員会の予定  
第1回：7月23日(本日) 第2回：9月7日(六甲部会に併せて開催 その後メネットアワーと時間が重複することや会議室の都合などで中止) 第3回：1月11日の Y Y フォーラムの前(午前中)に開催予定(次期 E M C 主査が内定しておれば並行して準備活動の補佐開始 部則改定準備も兼ねる) 第4回：3月の第1回評議会に併せて開催、第5回：4月から6月の西日本区大会までの間に開催し、纏めと表彰対象の選考など  
ユースリーダー会などへ出席してワイズのアピール  
クリスマス(12月) 卒業激励会(3月) リーダーオリエンテーション(4月～6月) その他  
六甲部会でのアピール

機会があればアピールと新入会現況の報告など  
第二評議会での中間報告、部則改定の提案  
六甲部次期準備役員会で次期主査への引継ぎ（５月）  
西日本区大会出席で最終纏め（６月）

## 6. 質疑応答と自由討議

（主なご意見）

- ・ 15周年記念講演会で一般公開とし、出席された方にアンケートをお願いしたところさっそく多くの反響があり、その中から有力な方と面談した結果数名の入会が見込まれる。こういう機会は有効であることが判明したので、各クラブでも大いに奨励したい。支援することが可能なのでそういった催しをどんどん企画されたい。（芦屋）
- ・ 毎月の第二例会でメンバーから候補者を募って活動状況をフォローしている。地道な活動だが徐々に効果はあり、65周年記念例会で1名の入会に漕ぎつけることが出来た。（西宮）
- ・ クラブ本体の体制が揺らいでいる。縮小は止むを得ないがまずは本来のワイズの姿に戻すことが大切。それから原点に戻ってやり直さねばならない。そういった支援をぜひお願いしたい。
- ・ 余島リーダーやユースリーダーを中心に若返りを図らねばならない。一旦卒業してしまふと追跡が大変。同期中心に誘うと効果的。
- ・ 一時ユースを誘致しようと余島リーダー中心に数人を例会に招いたことがある。その時の入会者が現在も数人いる。ユースについては会費も食事代のみとする優遇措置も検討した。その時亡くなった近江岸氏も協力して、UメンやIメンはその時の入会者。またFメンはお孫さんの保育園への入園をきっかけに入会が叶った。西日本区全体（六甲部、中西部、京都部など）のメンバーで西宮在住の方のコメントを誘ったことがあったが、若い年代は一人で行動するのが苦手なように思われる。グループ毎纏めての入会で安心感があるようだ。（西宮）
- ・ 若い年代を誘致することはクラブ全体の平均年齢を下げることに併せての若返り効果が大切。
- ・ 女性会員を増やすことはクラブの活性化に有効である。
- ・ クラブメンバー自体の出席率はそんなによくはないが、毎月のゲストの数では引けをとらない。メンバーよりもゲストの方が多い月もある。それだけ魅力ある例会にする努力をしている。その中から入会者が増えてきているようだ。まずは例会にお誘いすることが大切。（宝塚）
- ・ 今日代理で出席したが、国際ボランティアリーダーの時代にそういった活動は大に行った。国際リーダーにもそういった機会を増やしていきたい。（神戸ポート）
- ・ ネットの中でもメンバーとして活動したいという人を育成している。
- ・ ユースリーダー会の大きなイベント（クリスマスや卒業激励会など）に積極的に向いて、ボランティア活動を卒業で辞めてしまわないで、生涯を通したボランティア活

動の受け口としてのワイズの役割を説明して、どこにいてもいつでもボランティア活動が出来るような体制作りを訴えていきたい。卒業コースリーダーは転勤や結婚で分散していくので、こういったことはいずれは同盟などの協力が必要になってくる。Y3などのユースクラブの活性化は今回経験者でもある廣瀬ウィメンがEMC委員になられたので期待したい。(小野)

- ・その他多くのご意見をいただいたので今後の活動に生かしていきたい。

(記録：小野勅紘)

以上